千葉県八千代市

公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅵ

麦丸遺跡e地点
サゴテ遺跡a地点
北海道遺跡a地点
保品南遺跡a地点
鶴作台遺跡b地点

平成25年度

八千代市教育委員会

凡　例

1．本書は，八千代市教育委員会が昭和59年度及び平成13年度～16年度に，市の公共事業に先行して実施した埋蔵文化財発掘調査事業の報告書である。本整理及び報告書作成作業は，平成25年度事業として行った。

2．本書に収録した発掘調査は，以下のとおりである。

No.	遺跡名	所在地	調査期間	調査面積	調査原因	調査担当
1	麦丸遺跡ｅ地点	麦丸字高野堀込1196番ほか	平成16年１月26日～ 平成16年１月29日	38.5㎡ /228㎡	農道舗装	武藤健一
2	サゴテ遺跡ａ地点	桑橋字サゴテ682番１	平成13年７月10日～ 平成13年７月16日	上層 12.75㎡, 下層4.5 ㎡, /27.07㎡	防火水槽	朝比奈竹男
3	北海道遺跡ａ地点	萱田字北海道712番１	平成16年６月14日～ 平成16年６月17日	上層８㎡ 下層２㎡ /36㎡	防火水槽	武藤健一
4	保品南遺跡ａ地点	保品字須賀1037番２	平成16年９月27日～ 平成16年10月１日	30㎡ /36㎡	防火水槽	武藤健一
5	鵜作台遺跡ｂ地点	島田台字大東台766番15	昭和59年６月１日～ 昭和59年７月20日	366㎡ /1,419㎡	消防署分署建設	秋山利光

3．出土遺物で用いた砂・礫の表記と大きさの関係については，土壌学及び国際法の基準に従い，以下のとおりである（単位：㎜，礫の大きさは長径）。

巨礫300～200，大礫 200～100，中礫100～50，小礫50～10，細礫10～２，粗砂２～0.2，細砂0.2～0.02

4．出土した遺物のほか，写真・図面等の調査資料は，八千代市教育委員会が保管している。

5．本書の執筆・図版作成は，Ⅱの５を秋山利光が，その他を常松成人・山下千代子が行い，遺物写真撮影・編集は常松が担当した。

目　　次

凡例
目次　　挿図目次　　表目次　　写真図版目次
Ⅰ　調査に至る経緯……1
Ⅱ　各調査の概要
　1．麦丸遺跡ｅ地点……3
　2．サゴテ遺跡ａ地点……8
　3．北海道遺跡ａ地点……11
　4．保品南遺跡ａ地点……14
　5．鵜作台遺跡ｂ地点……17
報告書抄録……21

挿図目次

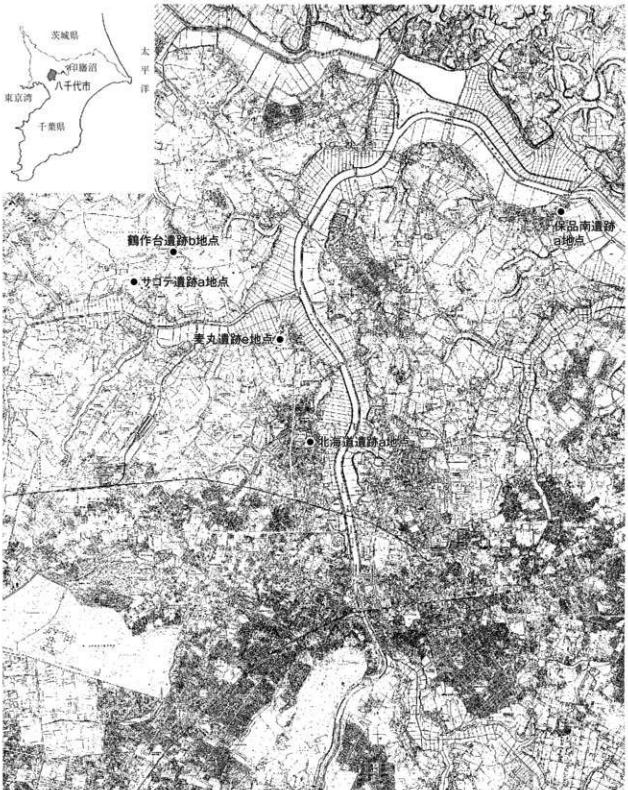
第１図　本書掲載調査遺跡位置図……iii
第２図　麦丸遺跡ｅ地点位置図……3
第３図　麦丸遺跡ｅ地点トレンチ実測図……4
第４図　麦丸遺跡ｅ地点出土遺物……6
第５図　サゴテ遺跡ａ地点位置図……8
第６図　サゴテ遺跡ａ地点トレンチ配置図……9
第７図　サゴテ遺跡ａ地点Ｐ01土坑実測図……9
第８図　サゴテ遺跡ａ地点出土遺物……9
第９図　北海道遺跡ａ地点位置図……11
第10図　北海道遺跡ａ地点トレンチ実測図……12
第11図　北海道遺跡ａ地点出土遺物……12
第12図　保品南遺跡ａ地点位置図……14
第13図　保品南遺跡ａ地点トレンチ実測図……15
第14図　鵜作台遺跡ｂ地点位置図……17
第15図　ｂ地点グリッド配置図……18
第16図　Ｉ５グリッド溝検出状況 ……18
第17図　Ｅ５グリッド土層 ……18
第18図　鵜作台遺跡ｂ地点出土遺物……20

表目次

第１表　麦丸遺跡ｅ地点各トレンチ調査概要……5
第２表　麦丸遺跡ｅ地点出土遺物観察表……6
第３表　サゴテ遺跡ａ地点出土遺物観察表……9

写真図版目次

図版１　麦丸遺跡ｅ地点……7
図版２　サゴテ遺跡ａ地点……10
図版３　北海道遺跡ａ地点……13
図版４　保品南遺跡ａ地点……16
図版５　鵜作台遺跡ｂ地点……20



第１図　本書掲載調査遺跡位置図

（八千代都市計画基本図に加筆）

Ⅰ　調査に至る経緯

八千代市は，首都圏のベッドタウンとして開発が進み，平成８年４月の東葉高速鉄道の開業以来，さらにその傾向を強め，沿線を中心とした新しいまちづくりが進んでいる。こうした状況の中，八千代市は，「快適な生活環境とやすらぎに満ちた都市八千代」を実現するために，第４次総合計画を策定し，「市民の誰もが，八千代市に住んでいてよかったと実感できるまち」をめざして，諸事業を実施しているところである。それら市の事業で土木工事を伴う場合について，八千代市教育委員会（以下「市教委」という。）では，毎年予算策定時期に市役所各課の次年度の公共事業計画を照会することによって把握し，その結果に応じて予算措置をしている。

発掘調査に至る事前手続きとしては，千葉県教育委員会の指導のもと，「埋蔵文化財の取扱いについて（協議）」（以下「協議依頼」という。）の提出を求め，回答したうえで，埋蔵文化財包蔵地内の場合は，さらに文化財保護法第94条第１項の通知の提出を求め，「公共事業埋蔵文化財調査事業」として発掘調査を実施している。

以下は，本書に掲載した各調査に至る経緯である。昭和59年度・平成13年度・15年度・16年度に実施した消防署分署建設に伴う調査１件，農道舗装に伴う調査１件，防火水槽設置に伴う調査３件である。なお，当時は，現在の協議依頼に当たる文書は「埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて（照会）」（以下「照会文書」という。）であり，同様に文化財保護法第94条の通知は，同法第57条の３第１項の通知（以下「土木工事の通知」という。）であった。

麦丸遺跡ｅ地点

平成15年10月，八千代市長（八千代市農政課）から八千代市麦丸字高野堀込1196付近の農道228㎡について，農道舗装のための照会文書が提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であり，市教委が現地踏査を行ったところ，照会地及び隣接する畑地において，縄文土器等の遺物の散布を確認した。このため照会地全域について包蔵地の範囲内である旨を回答し，その取扱いについて協議を行った。協議の結果，確認調査を実施することとなり，11月に八千代市長から土木工事の通知が提出された。市教委は準備が整った平成16年１月26日に調査を開始した。

サゴテ遺跡ａ地点

平成13年４月，八千代市長（八千代市消防本部警防課）から桑橋字サゴテ682番１の27.07㎡について，防火水槽設置のための照会文書が提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であり，周辺の調査実績から，照会地全域について包蔵地の範囲内である旨を回答し，その取扱いについて協議を行った。協議の結果，確認調査を実施することとなり，７月に八千代市長から土木工事の通知が提出された。市教委は準備が整った７月10日に調査を開始した。

北海道遺跡ａ地点

平成16年５月，八千代市長（八千代市消防本部警防課）から萱田字北海道712番1の宅地内36㎡について，防火水槽設置のための照会文書が提出された。照会地は周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であり，周辺の調査実績から，照会地全域について包蔵地の範囲内である旨を回答し，その取扱いについて協議を行った。協議の結果，確認調査を実施することとなり，６月に八千代市長から土木工事の通知が提出された。市教委は

準備が整った６月14日に調査を開始した。

保品南遺跡ａ地点

平成16年５月，八千代市長（八千代市消防本部警防課）から保品字須賀1037番２の宅地内36㎡について，防火水槽設置のための照会文書が提出された。照会地には使用されなくなった納屋があり，草木が繁茂している状態であった。全域が周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であり，その旨回答した。確認調査を実施する方向で協議を行い，６月に八千代市長から土木工事の通知が提出された。警防課が納屋の撤去と樹木伐採を手配し，準備が整った９月27日に市教委は調査を開始した。

鶴作台遺跡ｂ地点

昭和59年２月，八千代市消防本部消防長から島田台字大東台766番15の畑地1,419㎡について，八千代市消防署睦分署建設のための照会文書が提出された。照会地は，全域が周知の埋蔵文化財包蔵地の範囲内であるため，３月にその旨千葉県教育委員会に副申した。４月に千葉県教育委員会から全域遺跡有りという回答があり，市教委から八千代市消防長に伝達した。協議の結果，発掘調査を実施することとなり，５月に八千代市長から土木工事の通知が提出された。準備が整った６月１日に市教委は調査を開始した。

公共事業関連遺跡発掘調査報告書

八千代市教育委員会（2003年）『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書』

八千代市教育委員会（2007年）『千葉県八千代市権現後遺跡―公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅱ―』

八千代市教育委員会（2009年）『千葉県八千代市おおぴた遺跡ｂ地点―公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ―』

八千代市教育委員会（2009年）『千葉県八千代市殿内遺跡ｂ地点―公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ―』

八千代市教育委員会（2013年）『千葉県八千代市平沢遺跡ａ地点・殿台遺跡ａ地点―都市計画道路３・４・９号線建設地内埋蔵文化財発掘調査報告書―』（公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅴ）

Ⅱ　各調査の概要

1．麦丸遺跡ｅ地点

遺跡の立地と概要

麦丸遺跡は，市城の中央部，新川西岸の台地上に立地する。新川とその支谷である栄重谷津，桑納川とその支谷である善左衛門谷津によって画された広大な台地上一帯が遺跡である。

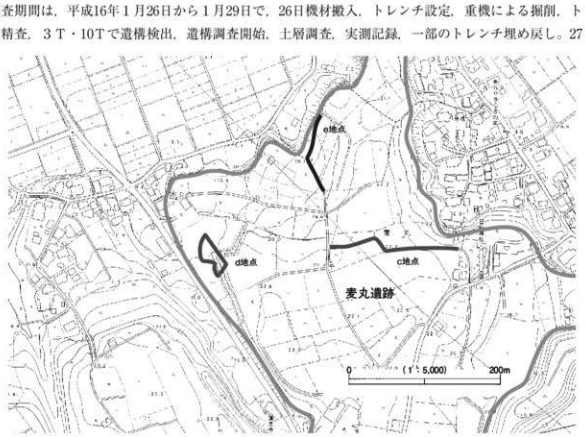
これまでにｅ地点を含めて９地点の発掘調査が実施されており，うちａ・ｂ・ｄ・ｈ・ｉの５地点では縄文時代の遺構・遺物が中心であった。また，かつては遺跡範囲内に大日前塚群，金塚所在塚，南西方向には麦丸台塚群があり，近世の塚が散在する地域でもあった。

ｅ地点は，遺跡の北部の標高約18～20mの台地上を南北方向に走る農道である。周辺の畑地には，縄文土器や古墳時代前期の土師器などが散布していた。なお，本地点の南端から約70m南の地点から日枝神社付近に至る東西方向に走る農道についても，舗装工事に先行して調査した（ｃ地点）。ここでは時期不明の溝跡が１条検出されたが，遺物は出土しなかった。ｅ地点の周辺には大日前塚群（中近世塚６基）が所在するが，既に削平されている。塚群の中には古墳も含まれていたらしく，出土した箱式石棺の石１枚が付近に祀られていると言われているが，確認していない。

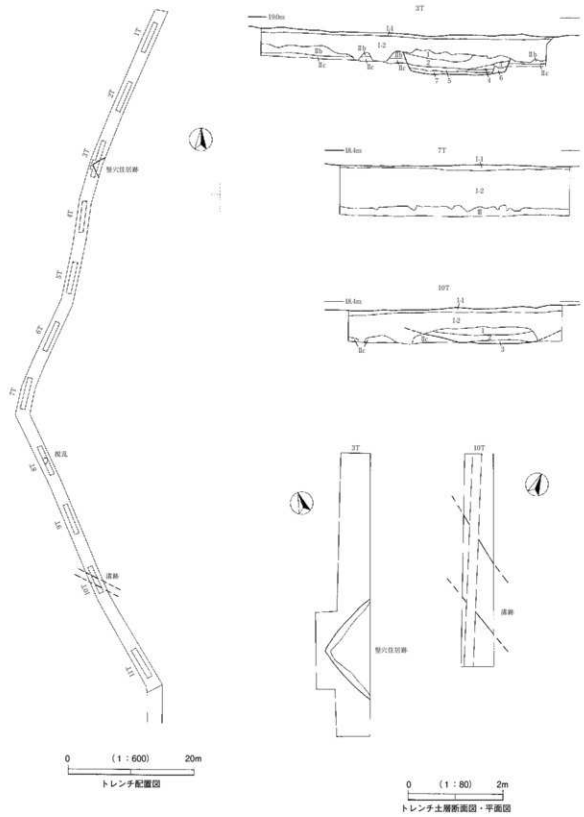
調査の方法と経過

トレンチは農道の範囲内で幅0.7m，長さ５ｍを基本とし，約５ｍ間隔で11箇所設定した。北から南へ向かって１Ｔ～11Ｔまで付番した。38.5㎡分を設定し，人力及び重機でこれらを掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成16年１月26日から１月29日で，26日機材搬入，トレンチ設定，重機による掘削，トレンチ内精査，３Ｔ・10Ｔで遺構検出，遺構調査開始，土層調査，実測記録，一部のトレンチ埋め戻し。27日３



第２図　麦丸遺跡ｅ地点位置図



第３図　麦丸遺跡ｅ地点トレンチ実測図

T遺構調査継続，土層調査，実測記録。28日３T遺構調査終了，出土遺物水洗。29日出土遺物水洗・注記，重機による埋め戻し，機材を撤収し調査を終了した。

各トレンチの調査概要は，第１表のとおりである。

土層の観察所見としては，３T東壁では，表層に砕石（Ⅰ-1）が厚さ0.1m前後あり，その下に耕作土（Ⅰ-2，黒褐色土，しまり脆弱，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子を微量含む）が0.2～0.5mとやや厚く堆積している。以下にⅡb層（褐色土，新期富士テフラ層），Ⅱc層（暗黄褐色土，ローム漸移層）を確認した。本トレンチでは，竪穴住居状の遺構が検出された。その覆土は，１（黒色土，ローム粒子微量含む），２（黒色土，ローム粒子少量含む），３（黒色土，ローム混じり，ローム粒子少量含む），４（黒色土，ローム粒子・焼土粒子少量含む），５（暗褐色土，ローム粒子多量含む），６（暗黄褐色土，ロームと黒色土が混じり合う，ロームブロック・ローム粒子多量含む），７（暗黄褐色土，ロームと黒色土が混じり合う，ローム粒子多量含む）であった。

７T東壁では，３T同様Ⅰ-1とⅠ-2が検出され，ここではⅠ-2が0.8m前後堆積しており，その直下でⅢ層（ソフトローム層）に達していた。

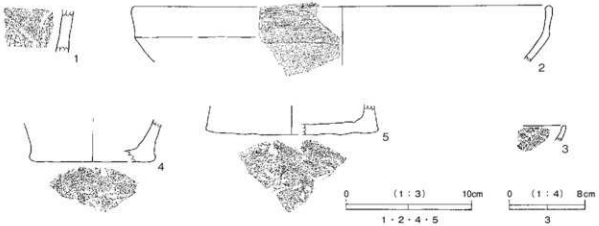
10Tでは，３T・７T同様Ⅰ-1とⅠ-2が検出され，ここではⅠ-2が0.3～0.7m堆積しており，その直下でⅡc層に達していた。本トレンチでは，溝跡が検出された。その覆土は，１（黒褐色土，ローム粒子少量含む），２（黒色土，ローム粒子微量含む），３（暗灰褐色土，硬化面，ローム粒子多量含む）であった。

３Tの検出遺構は，トレンチを拡張し，竪穴住居跡の西側コーナーと判断した。検出遺構の北西壁の長さは1.44m，南西壁は1.38m，深さは，0.15～0.4m，床面はⅢ層から成り，黒色土・黒褐色土が混じる。壁溝やピットは検出されなかった。遺物は縄文中期・後期土器片が出土したが，遺構形状や覆土，周辺の散布遺物から見て，古墳時代前期の竪穴住居跡と判断した。

10Tの溝跡は，北西～南東方向に走り，幅約0.9～１mで，長さ約2.4mを検出した。深さは0.3～0.4mで壁はなだらかに立ち上がる。底面は平坦で硬化しており，道として使用されたようである。遺物は出土しなかった。覆土の状態等から判断して，近世以降のものと推定する。

第１表　麦丸遺跡e地点各トレンチ調査概要

トレンチNo.	深さ（m）	確認面	検出遺構	出土遺物
１T	0.6	Ⅲ層（ソフトローム層）	なし	なし
２T	0.6	Ⅲ層（ソフトローム層）	なし	なし
３T	0.6	Ⅱc層（ローム漸移層）	古墳時代竪穴住居跡１軒	縄文土器５点
４T	0.8	Ⅲ層（ソフトローム層）	なし	なし
５T	0.8	Ⅲ層（ソフトローム層）	なし	なし
６T	0.9	Ⅲ層（ソフトローム層）	なし	なし
７T	0.9	Ⅲ層（ソフトローム層）	なし	古墳時代土師器２点
８T	0.9	Ⅲ層（ソフトローム層）	なし（攪乱あり）	なし
９T	0.8	Ⅲ層（ソフトローム層）	なし	なし
10T	0.8	Ⅱc層～Ⅲ層	溝跡１条	なし
11T	0.8	Ⅲ層（ソフトローム層）	なし	なし



第４図　麦丸遺跡ｅ地点出土遺物

第２表　麦丸遺跡ｅ地点出土遺物観察表

No.	出土地点	器形	状態・部位	計測値（cm）	○粘土／石材　●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	３Ｔ	深鉢	胴部 小片	残存高８－10	○雲母，雲母，石英 ●内）灰褐色　外）褐色	内）ナデ，ミガキ。 外）良し磨消縄文，撚糸短文。	縄文土器 中期加曽利E４式
2	３Ｔ住居跡	浅鉢か	口縁部	復元口径328 残存高44	○雲母，雲母 ●内）淡褐色　外）褐色，灰褐色	内）横方向ミガキ。 外）横方向ミガキ，後以下は横方向ケズリ。	縄文土器 後期加曽利B式
3	７Ｔ	坏	口縁部 小片	—	○雲母 ●橙色	内）横方向ナデ。 外）横方向ナデ。	土師器
4	隣地表面採集	深鉢	底部 １／４	復元底径100 残存高35	○雲母，雲母 ●赤褐色，灰色	内）ナデ，縦方向ミガキ。 外）横方向ナデ，ミガキ。　底外）ミガキ。	縄文土器
5	隣地表面採集	深鉢	底部 １／４弱	復元底径136 残存高24	○雲母 ●内）灰褐色　外）橙褐色	内）ナデ。 外）横方向ナデ，ミガキ。　底外）ナデ，ミガキ。	縄文土器 中期

遺物は７点出土した。うち３点を図示した。

他に隣地表面採集の遺物が196点あり，内訳は，土師器156点（ロクロ坏なし，古墳時代中心であろう），古墳前期土師器23点（ハケ目あり），高坏脚部２点，縄文土器８点（中期か），弥生土器２点，瓦質土器・すり鉢・泥面子・かわらけ・剥片各１点であった。縄文土器底部を２点図示した。

調査のまとめ

広大な麦丸遺跡の北端の一角を調査し，古墳時代前期と判断される竪穴住居跡１軒を検出した。該期の遺物は小細片ばかりで図示できなかったが，隣地の表面採集遺物の中で，古墳時代土師器の占める割合は90％を越えている。ｅ地点の周囲には，古墳時代前期を中心とした集落跡が存在していると判断される。

また，縄文時代中期・後期の比較的良好な遺物を少量ではあるが確認し，縄文時代包蔵地としての本遺跡の在り方を再確認できた。

本遺跡に関する調査報告書

八千代市遺跡調査会（1982年）『千葉県八千代市麦丸遺跡』（ａ地点・ｂ地点）

八千代市教育委員会（2002年ａ）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成13年度』（ｄ地点）

八千代市教育委員会（2002年ｂ）『千葉県八千代市不特定遺跡発掘調査報告書１』（金塚所在塚）

八千代市教育委員会（2003年）『千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書』（ｃ地点）

八千代市教育委員会（2007年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成18年度』（ｆ地点）

八千代市教育委員会（2011年）『千葉県八千代市麦丸遺跡ｈ地点―宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書―』（ｈ地点本調査）

八千代市教育委員会（2012年）『千葉県八千代市市内遺跡発掘調査報告書　平成23年度』（ｇ地点・ｈ地点確認調査）

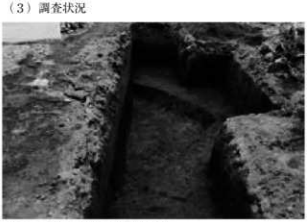
図版１　麦丸遺跡ｅ地点

（１）調査前状況－１－

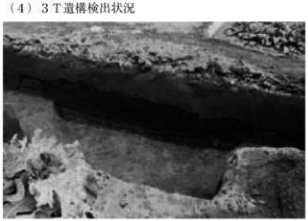
（２）調査前状況－２－

（３）調査状況

（４）３Ｔ遺構検出状況

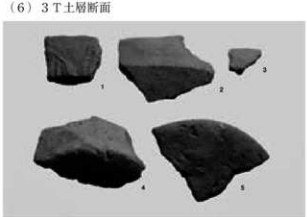


（５）３Ｔ竪穴住居跡調査状況



（６）３Ｔ土層断面

（７）７Ｔ調査状況



（８）出土遺物（番号は第４図と同じ）

2．サゴテ遺跡ａ地点

遺跡の立地と概要

サゴテ遺跡は，市域の北西部，桑納川の低地を南に臨む台地上に立地する。これまでにａ地点以外に発掘調査されたことはないが，縄文時代，奈良・平安時代の包蔵地と認識されている。ａ地点は，遺跡中央やや南寄りの標高22.0m前後の畑地である。

調査の方法と経過

調査区を形状に合わせて４分割し，北西の区画をⅠグリッド（Ⅰｇ）とし,1.5m×2.5mのトレンチを設定し，Ⅱ～Ⅳグリッド（Ⅱｇ～Ⅳｇ）には1.5m×２mのトレンチを１箇所ずつ設定した。トレンチは合計４箇所，12.75㎡で，これらを人力及び重機で掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

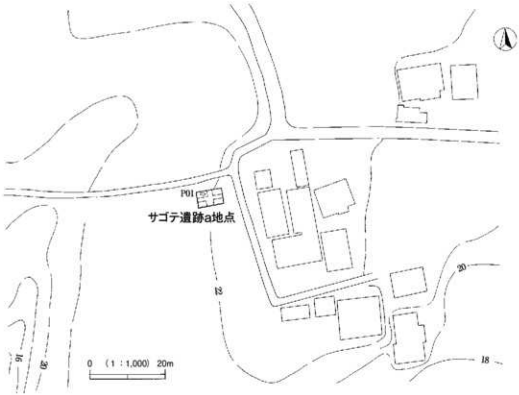
調査期間は，平成13年７月10日から７月16日である。７月10日～13日機材搬入，トレンチ設定，トレンチ掘削，Ⅲｇ土層調査，Ⅰｇ遺構調査，16日トレンチ完掘状況写真撮影，埋め戻し，機材を撤収し，調査を終了した。

調査の概要

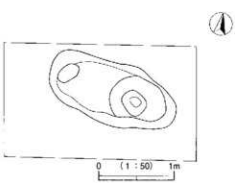
土層の観察所見としては，Ⅲｇトレンチ北壁土層では，Ⅲ層（ソフトローム層），Ⅳ・Ⅴ層（ハードローム層）を検出したが，全体的に耕作土の天地返しによると見られる撹乱があり，基本層序はほとんど認められなかった。

遺構は，Ⅰｇにおいて長楕円形の土坑１基（P01）を検出した。長軸1.78m，短軸0.83m，長軸方位はN―75°―Wである。土坑内からは土師器片６点と土師器砕片が出土した。その中にハケ目のある破片が見られること，トレンチ内から古墳時代前期と考えられるハケ目のある土師器が出土していることから，土坑も該期のものと判断した。他にも土坑状のプランを１箇所検出したが，遺構と認定できる積極的な根拠を見出せ

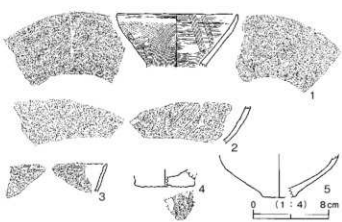
第５図　サゴテ遺跡ａ地点位置図



第６図　サゴテ遺跡ａ地点トレンチ配置図



第７図　サゴテ遺跡ａ地点Ｐ01土坑実測図



第８図　サゴテ遺跡ａ地点出土遺物

第３表　サゴテ遺跡ａ地点出土遺物観察表

No	出土地点	器形	状態・部位	計測値（cm）	○砂土／石材　●色調	整形・調整・文様などの特徴	その他
1	Ⅰｇ	壺	口縁部 ～頸部	復元口径128 残存高56	○橙砂 ●橙褐色、暗褐色、褐色	内）横方向ナデ、ハケ目。 外）横方向ナデ、縦方向・斜方向ハケ目。	土師器
2	Ⅰｇ	甕	胴下部 5.5%残存	－	○橙砂 ●内）橙色、橙褐色　外）褐色、黒色	内）斜方向工具痕、ナデ。 外）縦方向ハケ目。	土師器
3	Ⅰｇ	鉢か	口縁部	残存高30	○橙砂 ●淡橙色	内）横方向ハケ目。 外）斜・縦方向ハケ目。	土師器
4	Ⅱｇ	甕か	底部	復元底径64 残存高18	○雲母 ●内）褐色　外）赤褐色	内）ナデ。 底外）ナデ、ミガキ、中央に凹部あり。	土師器
5	Ⅱｇ	壺か	底部付近	復元底径36 残存高45	○雲母、赤褐色粒子少量 ●内）淡橙褐色　外）淡褐色	内）ナデ、ハケ目少。 外）斜方向ナデ。	土師器

なかった。

遺物は，土師器片48点及び砕片，小礫１点が出土した。各区の状況は，Ⅰｇから古墳時代前期の土師器等42点及び砕片，Ⅱｇから土師器片・小礫各１点，Ⅲｇからハケ目のある土師器片等４点，Ⅳｇから土師器小片１点であった。Ⅰｇ・Ⅱｇから出土した５点を図示した。

調査のまとめ

遺構としては，古墳時代前期の土坑１基を検出し，遺物は，古墳時代前期の土師器などを検出した。本地点は古墳時代前期を主としており，本遺跡に関する新知見を得た。

図版２　サゴテ遺跡ａ地点

（１）調査区近景

（２）Ⅲｇトレンチ土層断面

（３）P01土坑土層断面

（４）P01土坑完掘状況

（５）トレンチ完掘状況

（６）出土遺物（番号は第８図と同じ）

3．北海道遺跡ａ地点

遺跡の立地と概要

北海道遺跡は，市域の中央部，須久茂谷津を北に臨む台地上に立地する。

萱田遺跡群を構成する遺跡の一つで，萱田特定土地区画整理事業に先行して，(財)千葉県文化財センターによってヲサル山・権現後・井戸向・白幡前・坊山の各遺跡とともに発掘調査が行われている。旧石器を初め，弥生時代後期，古墳時代中・後期，奈良・平安時代の遺構・遺物が多数検出されている。本遺跡は，南西部の標高が高く20mを越えており，北の須久茂谷津及び東の新川に向かって低くなっている。この北～東向きの斜面・緩斜面に古代集落が形成されていた。

本遺跡に対して市が実施する調査は，今回が初めてであった。本地点は遺跡の東端で南海道遺跡との境界付近に当たる。上述した緩斜面の一画であり，南海道遺跡と同様の標高12m前後の低台地上である。

調査の方法と経過

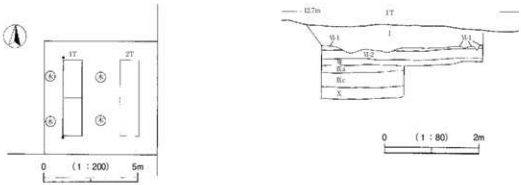
工事範囲６ｍ×６ｍの中に，立木を避けて１ｍ×４ｍのトレンチを２箇所設定した。人力及び重機で掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成16年６月14日から６月17日で，14日機材搬入，トレンチ設定，重機による掘削(終了)。トレンチ内精査。14日・15日１Ｔ南端１ｍ×２ｍを下層調査。15日・16日土層調査。16日人力による埋め戻し。17日機材を撤収して，調査を終了した。

調査の概要

１Ｔ西壁の土層観察所見は，Ⅰ層(表土。黒褐色土。ローム粒子を多量含む。しまりなし。陶器片・コンクリート片等のゴミを含む。)，Ⅵ層-1(明黄褐色土。ＡＴを含み，白色味を帯びる。)，Ⅵ層-2(黄褐色土。ＡＴを含む。上より暗色。)，Ⅶ層(暗褐色土。第２黒色帯上部に相当する。)，Ⅸａ層(暗褐色土。第２黒色帯下部。

第９図　北海道遺跡ａ地点位置図



第10図　北海道遺跡ａ地点トレンチ実測図

第11図　北海道遺跡ａ地点出土遺物

やや黒褐味を帯びる。)，Ⅸｃ層(暗褐色土。粘性やや強い。)，Ⅹ層(暗黄褐色土。粘性強い。)であった。地表面の標高は12.3m～12.5m，Ⅵ層-1・２の標高は，11.7m～12mである。表土の厚さが0.4m～0.56mあり，その直下でハードロームに達していた。造成工事等によって削平されたものと推察する。

遺構は検出されなかった。削平によって消滅した可能性もある。

遺物は土師器及び近世の泥面子各１点が出土したが，廃土中に見出したものである。泥面子を図示した(第11図１)。円盤型で，径22mm，厚さ８mm，焼成良好，淡褐色，細砂・赤褐色粒子を含む。土師器は，２cm×2.5cmの小片，甕の胴部と思われる。焼成良好，細砂を含み，淡橙褐色。図は省略した。

調査のまとめ

土師器小片，近世泥面子が出土した。遺構は検出されなかった。この地点は，造成工事等によって削平されているらしく，遺存状態は不良であった。他方，東に隣接する南海道遺跡では，ａ・ｂ地点で古墳時代後期等の遺構・遺物が検出されている。北海道遺跡から南海道遺跡に至る標高10～12mの低台地上には，該期の集落跡が展開している可能性があり，今後も注意する必要がある。

本遺跡に関する調査報告書

財団法人千葉県文化財センター(1985年)『八千代市北海道遺跡』―萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅱ―

財団法人千葉県文化財センター(1994年)『八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡』―萱田地区埋蔵文化財調査報告書Ⅶ―

図版３　北海道遺跡ａ地点

（１）調査区近景

（２）１Ｔ調査状況

（３）１Ｔ土層断面

（４）２Ｔ調査状況

（５）出土遺物

4．保品南遺跡ａ地点

遺跡の立地と概要

保品南遺跡は，市域の北東部，新川の低地に臨む台地～低台地（千葉段丘面）上に立地する。遺跡中央西寄りの保品公会堂の水準点標高19.47ｍ付近が最高所で，周囲は低くなっている。

本遺跡については，平成19年度に遺跡西部で携帯電話無線基地局建設に先行して，工事面積12.25㎡のうち7.5㎡を調査した（ｂ地点）。その結果，遺構は検出されず，奈良・平安時代の土師器が出土した。

ａ地点は遺跡東端の標高７ｍ前後の千葉段丘上に位置する。県道八千代・宗像線沿いである。

調査の方法と経過

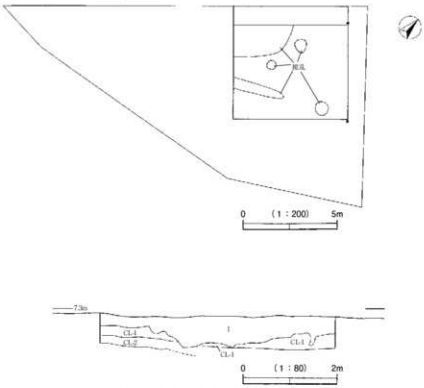
工事範囲は６ｍ×６ｍで，県道側に立木があったため，これを避けて５ｍ×６ｍの範囲を重機で掘削し，遺構・遺物の検出に努めた。

調査期間は，平成16年９月27日から10月１日で，９月27日機材搬入，調査区設定，重機による掘削（調査区を東西に分け，スイッチバック方式で実施した。），トレンチ内精査。29日土層調査。10月１日重機による埋め戻し，機材を撤収して，調査を終了した。

調査の概要

調査区北東壁の土層観察所見は，Ⅰ層（表土。黒褐色土。しまりなし。コンクリート片・あき缶等のゴミを含む。），CL-1層（黄褐色土。ローム層下部か。粘性強く，粘土に近い。），CL-2層（褐灰色粘土。上部は褐色味，下部は青灰色味を帯びる。粘性極強。褐鉄鉱のような粒子を少量含む。下部にはやや砂を含み，調査区北端は砂層に達している。）であった。表土の標高は7.1ｍ～7.2ｍ，粘土層上面は6.5ｍ～6.7ｍ，砂層上面は6.4ｍ～6.5ｍである。粘土層の在り方から見て，東側が低くなる緩斜面の地形であろうが，表土（盛土）によって平坦に改変されていた。

第12図　保品南遺跡ａ地点位置図



第13図　保品南遺跡ａ地点トレンチ実測図

遺構・遺物とも検出されなかった。

調査のまとめ

遺構・遺物とも検出されなかった。粘土層・砂層の上に厚さ0.3m～0.6mの表土(盛土)が乗っている状態であった。造成工事等の影響が考えられるが，調査事例の少ない標高７ｍの千葉段丘上の土層に関する資料を得た。

図版４　保品南遺跡ａ地点

（１）調査区近景

（２）西側調査状況

（３）東側調査状況

（４）土層断面

5．鶴作台遺跡ｂ地点

遺跡の立地と概要

鶴作台遺跡は市域の北西部に位置し，神崎川の右岸(南岸)，睦地区島田台に所在する。

本跡は神崎川水系に属し，船橋市との市境を流れる鈴身川の最奥部，柏谷津の右岸の細長い舌状台地上に立地する。神崎川から直線距離で約3km上流に上るが，桑納川からは1kmほどしか離れていない。

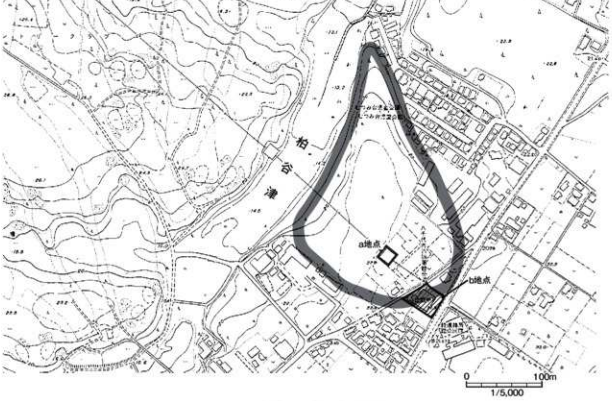
本跡周辺の地質学上の地形面は下総下位段丘面と下総上位段丘面との二つの段丘面で形成されており，本跡はその境界付近に位置している(※参考文献1)。標高が22mから23m付近の台地平坦面に占地する。

本跡の調査は昭和53年に最初の調査が行われている。当時，東京電力株式会社が行う送電鉄塔建設工事に伴い，4市町村(八千代市・船橋市・印西町・印旛村)で9遺跡の発掘調査が，昭和53年11月から翌年1月までの間，実施された。市内では6遺跡(島田台鶴作台遺跡・島田台遺跡・神久保間見穴遺跡・平戸台遺跡・平戸西の上遺跡・佐山寺の下遺跡)が調査の対象となった。

島田台鶴作台遺跡(当時の名称)の発掘調査では遺構の検出がなかったため，調査報告書に位置図やグリッド図などの情報はないが，縄文土器3点の実測図と写真2点が掲載され，出土遺物のあったことが分かる。(※参考文献2)鉄塔の位置に移動がないとすれば，第14図(※注1)に図示したａ地点の位置と考えられる。

調査の方法と経過

調査区の現況は，調査当時，作物が耕作される畑地となっていた。調査方法は調査区中央を通る方向に任意の基線を設け基準とした。グリッドは5m方眼で設定し，名称は南隅の杭名称を用いた。高さの基準は，近辺に標高の明確な地点を見つけられなかったため，周辺はほぼ平坦でもあり，調査区域境の任意の石杭を



第14図　鶴作台遺跡ｂ地点位置図

基準に計測することとした。

調査経過は，昭和59年6月1日にグリッドを設定し，掘削を開始した。6月30日まで掘削及び遺構の検出作業を行い，6月30日から平面実測及び土層の実測を行った。調査の完了に伴い，7月12日から同20日まで埋め戻しを行い，すべての調査を終了した。

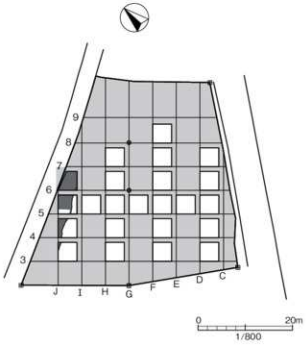
調査の概要

グリッド掘削は人力により行い，4m×4mのグリッドを23ヶ所(変則1ヶ所)，366㎡を掘削した。現地の状況により，一部掘削することができなかったため，調査グリッドの配置が，やや偏った傾向となった。全体面積1,419㎡に対し，25.8％の調査を行った。

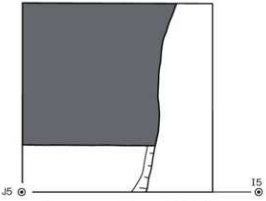
調査区域内の土層は，道路周辺でやや撹乱を受けているものの，平坦部の均一な土層を形成していた。Ⅰ層は表土層で，耕作をされていたこともあり，平均50cmほどの厚さがあった。Ⅱ層は暗褐色土層で，撹乱を受けている場所を除き，30cmから40cmほどの堆積をしていた。Ⅲ層はソフトローム層，Ⅳ層はハードローム層であった。(第17図)

調査区域内で遺構は検出されていない。道路に沿って幅広の溝を検出したが，比較的新しい遺構と判断した。溝状の一部をトレンチ状に掘削し確認すると，覆土は4層に分層された。覆土上層にはロームブロックを多量に混入する暗褐色土層でしまりがなかった。その下層にローム粒を少し含む黒褐色土層があり，異臭を放っていた。溝の底部近辺にはロームブロックを多量に混入する褐色土層が堆積していた。覆土中からすり鉢(第18図13)が出土した。

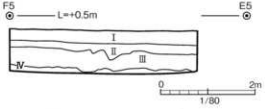
調査区域内で出土した遺物等は，総数70点であった。その内縄文土器43点，土師器2点，陶磁器5点，不明土器5点，鉄片5点，砥石や礫など10点が出土している。



第15図　b地点グリッド配置図



第16図　Ⅰ５グリッド溝検出状況



第17図　Ｅ５グリッド土層

出土遺物の主体を占める縄文土器は後期を中心としていた。土師器は小破片であるが，奈良・平安時代のものとみられる。鉄片の中には，銃弾らしきものが含まれていた。

１は，単節縄文が縦位の沈線により区画される。色調はにぶい橙色(5YR6/4)，Ｃ３グリッド出土。縄文中期か。出土遺物中に縄文が施文されているのはこの1点のみであった。

２は波状口縁，口縁部は無文で直下に沈線を一周し，以下胴部にも施文がみられず。色調はにぶい赤褐色(2.5YR5/4)，Ｃ６グリッドⅡ層下出土。３は隆線を張付て文様を構成する。色調はにぶい赤褐色(2.5YR5/4)，表採。４は半裁竹管による沈線文を横位に複数施文。色調はにぶい黄橙色(10YR7/3)，Ｅ８グリッド表土中。５は沈線文を弧状に複数施文。色調は明褐色(7.5YR5/6)，表採。６から11は条線文を荒く施文。６の色調は，にぶい橙色(5YR6/3)，Ｃ６グリッド，表土層中。７の色調は，にぶい褐色(7.5YR6/3)，Ｃ７グリッドⅡ層出土。８の色調は，にぶい橙色(7.5YR7/4)，Ｃ７グリッドⅡ層出土。９の色調は，にぶい褐色(7.5YR6/3)，Ｃ６グリッドⅡ層下出土。10の色調は，灰褐色(7.5YR5/2)，Ｃ６グリッドⅡ層下出土。11の色調は，にぶい橙(7.5YR6/4)，表採。２から11まで縄文後期とみられる。

12は土師器甕，口縁，色調はにぶい橙色(5YR6/4)，表採。13は陶器すり鉢の底部，内面に細かい擂目，内面の色調は灰褐色(5YR4/2)，外面には，暗赤褐色(5YR3/3)の釉がかけられていた。Ｉ５グリッド内の溝状遺構内出土。14は銃弾。Ｅ６グリッド表土中の出土。口径の大きさからライフルの銃弾と思われる。また，最大径部にライフルマークがきれいについていることから，発射された銃弾であるとみられる。先端がつぶれ，後端もつぶれ，えぐれている。

調査のまとめ

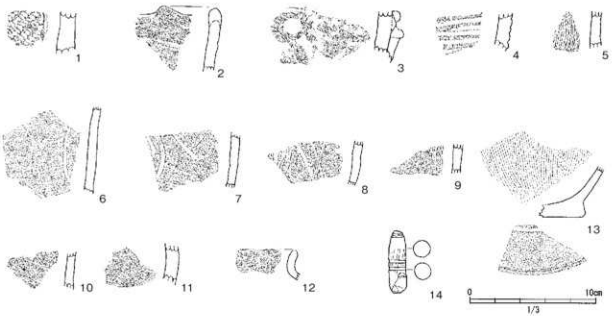
確認調査の結果，近代以降の新しい溝状遺構が1条，検出された。北西側の道路に沿って検出されている。そのほかには，遺構らしき落ち込みは見られない。

調査区全般に出土遺物は少なく，散漫な出土状況であったが，縄文後期の遺物はＣ６，Ｃ７グリッドにやや多くまとまって出土する傾向がみられた。これらの状況からみて，今回の調査区は鶴作台遺跡の中心部から，かなり外れたところに当たるとみられる。

今回の調査区の北西方向に50mほどの近接地にａ地点の調査が行われたが，遺構の検出はみられていない。いずれも，本跡全体からみると，遺跡の南側の外辺部にあたるのかもしれない。本跡の中心部は台地先端方向にあるものとみられる。ａ，ｂの2地点で出土した縄文土器が本跡の性格を規定するものではないだろうが，一端をうかがうことはできた。

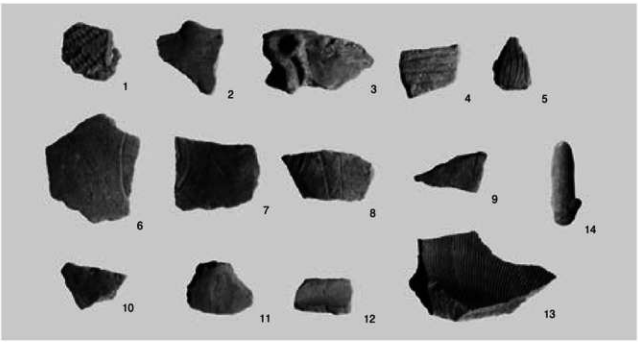
※参考文献

1．佐々木 茂ほか『八千代市の地形・地質』「八千代市文化財総合調査報告 Ⅰ」　八千代市教育委員会　1981
2．「東京電力送電鉄塔建設事業に伴う発掘調査報告書」　八千代市遺跡調査会 船橋市遺跡調査会　1980
※注１　使用した都市計画図は昭和54年に測図され，昭和60年３月に修正されたものである。



第18図　鶴作台遺跡ｂ地点出土遺物

図版５　鶴作台遺跡ｂ地点



報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよしこうきょうじぎょうかんれんいせきはっくつちょうさほうこくしょⅥ　へいせい25ねんど
書名	千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅵ　平成25年度
副書名	麦丸遺跡ｅ地点　サゴチ遺跡ａ地点　北海道遺跡ａ地点　保品南遺跡ａ地点　鵜作台遺跡ｂ地点
編著者名	常松成人　秋山利光
編集機関	八千代市教育委員会
所在地	〒276-0045　千葉県八千代市大和田138番地２　TEL 047（483）1151代表
発行年月日	平成26年３月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所　在　地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
ひがまるいせきーてん 麦丸遺跡ｅ地点	ちばけんやちよしあざたかのはらこめ 麦丸字高野堀込1196番ほか	1221	151	35度 44分 46秒	140度 6分 10秒	平成16年１月26日 ～ 平成16年１月29日	38.5 ／228	農道舗装
さこーていせきーてん サゴチ遺跡ａ地点	さくらのじあざさこーて 桑橋字サゴチ682番１	1221	66	35度 45分 14秒	140度 4分 54秒	平成13年７月10日 ～ 平成13年７月16日	上層 12.75, 下層4.5 ／27.07	防火水槽
ほっかいどういせきーてん 北海道遺跡 ａ地点	すだ ぎ ん ぞ ー ほっかいどう 菅田字北海道712番１	1221	183	35度 44分 ５秒	140度 6分 26秒	平成16年６月14日 ～ 平成16年６月17日	上層８, 下層２ ／36	防火水槽
ほしなみなんいせきーてん 保品 南 遺跡 ａ地点	ほしなみざ ん ぞ 保品字須賀1037番２	1221	84	35度 45分 44秒	140度 8分 37秒	平成16年９月27日 ～ 平成16年10月１日	30 ／36	防火水槽
うさぎのだいいせきーてん 鵜作台遺跡 ｂ地点	しまだ ざ ん ぞ ー ちょうかい 島田台字大東台766番15	1221	44	35度 45分 28秒	140度 5分 16秒	昭和59年６月１日 ～ 昭和59年７月20日	366 ／1,419	消防署 分署建設

所収遺跡名	種　別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
麦丸遺跡ｅ地点	集落跡	弥生時代後期～ 古墳時代前期	竪穴住居跡　１軒 近・現代溝跡１条	縄文土器　弥生土器 古墳時代土師器	
サゴチ遺跡ａ地点	包蔵地	古墳時代前期	土坑　１基	土師器	
北海道遺跡ａ地点	包蔵地	奈良・平安時代	なし	奈良・平安時代土師器 泥面子	
保品南遺跡ａ地点	包蔵地	弥生時代　古墳時代 奈良・平安時代	なし	なし	
鵜作台遺跡ｂ地点	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	なし	縄文土器　土師器	

要　約

麦丸遺跡ｅ地点　広大な麦丸遺跡の北端の一角を調査し，古墳時代前期と判断される竪穴住居跡１軒を検出した。該期の遺物は小細片ばかりであったが，隣地の表面採集遺物の中で，古墳時代土師器の占める割合は90％を越えている。このため，ｅ地点の周囲には古墳時代前期を中心とした集落跡が存在していると判断される。また，縄文時代中期・後期の比較的良好な遺物を少量ではあるが確認し，縄文時代包蔵地としての本遺跡の在り方を再確認した。

サゴチ遺跡ａ地点　遺構としては土坑１基を検出した。遺物は古墳時代前期の土師器を主体としており，土坑も同時期と考えられる。古墳時代前期を主体とする地点であることを確認した。

北海道遺跡ａ地点　土師器小片，近世泥面子が出土した。遺構は検出されなかった。この地点は，造成工事等によって削平されているらしく，遺存状態は不良であった。他方，東に隣接する南海道遺跡では，ａ・ｂ地点で古墳時代後期等の遺構・遺物が検出されている。北海道遺跡から南海道遺跡に至る標高10～12ｍの低台地上には，該期の集落跡が展開している可能性があり，今後も注意する必要がある。

保品南遺跡ａ地点　遺構・遺物とも検出されなかった。粘土層・砂層の上に厚さ0.3～0.6ｍの表土（盛土）が乗っている状態であった。造成工事等の影響が考えられるが，調査事例の少ない標高７ｍの千葉段丘上の土層に関する資料を得た。

鵜作台遺跡ｂ地点　遺構は検出されなかったが，縄文時代後期の土器がわずかではあるが出土した。本跡２地点目の調査であったが，いずれも跡域の南端であり，本体は北側の台地先端にあるものと推定される。出土遺物が本跡の主体となる時期とは必ずしもいえないが，一端を示す資料を得た。

千葉県八千代市公共事業関連遺跡発掘調査報告書Ⅵ
平成25年度

発　行　日	平成26年３月25日
編集・発行	八千代市教育委員会　教育総務課
	〒276-0045　八千代市大和田138-2
	TEL　047-483-1151
印　　刷	金子印刷企画